

## 概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、小豆島はもとより全国、全世界の観光産業は多大な打撃を受けております。いまだ収束は見通せず、観光需要が元に戻るのはいつになるか全くわからないという現実には直面しています。観光協会としても会員の皆様の大変厳しい状況を思慮し、上期の会費をいただかないという判断をいたしました。結果として今期の事業計画は今年始めに立案した時と比べ、かなり縮小されております。以下の計画は今年後半に旅行需要が一部でも回復することを前提に立案しておりますが、これについても今後の感染者数の推移によっては変更となる可能性もあります。

### 1. 新型コロナウイルス収束後の旅行喚起策

新型コロナウイルス感染症に関する状況は刻一刻と変化しており、予測は極めて難しくなっております。ただ、収束後に政府、香川県の旅行喚起策は必ず実施されるので、両町と関係団体との協力により、政府・県と歩調を合わせて小豆島独自の施策を機動的に実施できるように万全の準備をしていきます。

### 2. 観光客誘客事業

寒霞溪、映画村、オリーブ公園、醬の郷、エンジェルロードといった主要観光地の魅力を伝えることと合わせ、これまであまり取り上げられていない魅力的なスポットを発掘し、メディアに紹介していきたいと考えています。また、2019年5月に笠岡市・香川県丸亀市とともに土庄町、小豆島町が「石の島」として日本遺産に認定されました。こちらについても島内の対象エリアを精査した上で、観光振興に活用していきます。

### 3. フィルム・コミッション事業

この事業は短期的な効果ではなく、長期的に小豆島の魅力を多くの人に伝えていくために重要な事業となっています。関係する皆様の尽力により、小豆島島民の積極的なエキストラ協力、魅力的なロケ地提供は邦画制作担当者には評判となっており、今後とも強く推進してまいります。

### 4. 視察や研修等の受け入れ

これまでも多くの視察・研修を受け入れてきましたが、フィルム・コミッション同様長期的な小豆島のファンを増やすためにも、今後も積極的な受け入れを続けていきます。

### 5. 「まるごと小豆島」の進化

長期に渡ってご好評をいただいていた「まるごと小豆島」について、数ヶ月お休みをいただき、誰にどんな内容を伝えていくべきなのかを精査した上で、さらに進化した形で提供していきます。

## 6. 広域連携事業との推進

香川県観光協会、四国ツーリズム創造機構、せとうちDMOなど島外の団体と情報交換を密にし、観光需要復活の際に連携して小豆島への誘客を推進していきます。また、観光連携協定を結んだ赤穂観光協会が毎年12月14日に開催する赤穂義士祭に参加し、小豆島観光をPRします。

## 7. インバウンド環境整備

インバウンドの回復が始まるのは早くも1年後と予想されます。ただ、時間はかかりますが以前と同様に小豆島観光客のうち大きな割合を占めることになると考えています。そのため今年度は英語パンフレットの改定準備など外国人観光客を受け入れるための環境整備を行い、来る日のインバウンド復活に備えていきます。YOKOSO SHODOSHIMAについては少しお休みをいただいた上で方向性を検討し、外国人観光客へのサポートができるよう、よりパワーアップして再開していきます。

## 8. 地域限定旅行業の取得を目指す

現地発着ツアーを提供する地域限定旅行業を2021年度に始めたいと考えています。自然豊かな小豆島の新たな魅力を見つけ、主にトレッキングなどネイチャー系のツアーを造成することを想定しています。これについては長年の懸案だった自主財源の確保にもつながる重要な施策となります。9月に予定されている旅行業務取扱管理者試験で合格者を出すことができれば、定款変更の上で来年度に旅行業をスタートさせたいと考えています。